

セカンドステージ

趣味を楽しむ人たちの間で、ガレージハウスが人気だ。単なる車庫ではなく、居住スペースを備えた建物で、木工や陶芸の作業場に使ったり、ホームシアターにしたり、コレクションルームにしたりなど、さまざまな用途に使われている。男の隠れ家としてぴったりがガレージハウスの遊び方を紹介しよう。

画手に力を込めて木製のシャッターをぐいと持ち上げると、ガラガラという爽やかな音が響きわたる。木村進一さん(64)は、ガレージハウスのシャッターを開ける瞬間がたまらなく好きだという。

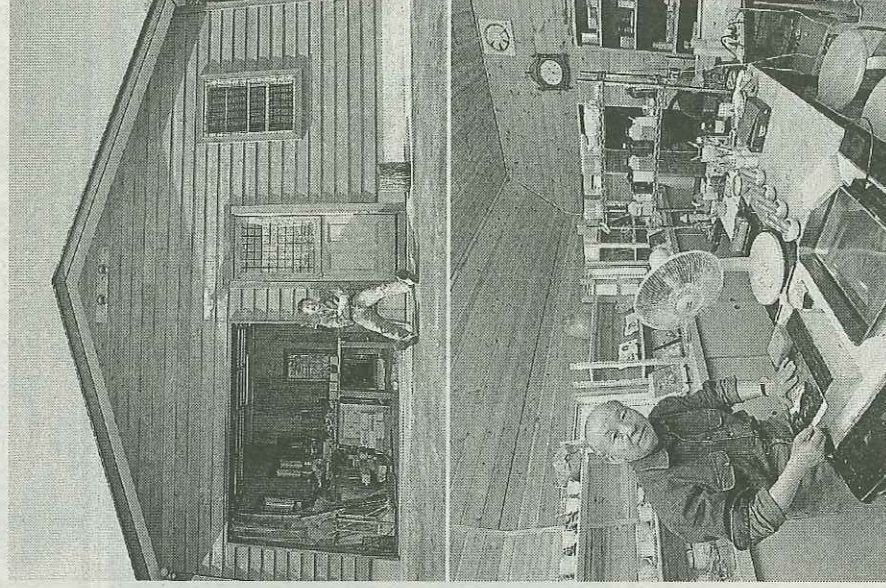
思う存分楽しむ

千葉県市原市内の自宅から車で十分のところにあるこのガレージハウスは、木村さんが「退職後は趣味の木工を思う存分楽しみたい」と建てた夢の城だ。用事がない限り、木村さんは毎朝十時ごろには決まってガレージに「出勤」する。

電動工具で木を切る、カシメで削る釘を打つ――。住宅密集地に建つ自宅では、近所迷惑にならないかと気を遣ってやっていた作業が、ここでは思う存分できる。途中、自宅で奥さんと昼食を食べた後、ガレージハウスに戻り、再び夕方遅くまで木工さんまひ。帰り際には壁のカレンダーにガレージでの滞在時間を書き込み、「今日もよく遊んだなあ」と充実感に浸る。昨年は年間二百四十日程度をここで過ごしたという。

ガレージハウス 夢の城

ガレージハウスを基礎工事からすべて手作りした木村さん(写真上)と、ガレージハウス内で写真陶板作りを楽しむ榎さん(同下)



木工や陶芸、ホームシアターに活用

木村さんのガレージハウスはキットタイプと呼ばれるもので、説明書を見ながら自分で組み立てる。価格は約二百六十万円(オプション料込み)だ。通常、基礎工事は業者に委託するケースが多いが、木村さんはすべて自分で手がけたために、完成までに一年以上かかった。とはいえ、木工好きの木村さんにとっては、ガレージハウス作りそのものが楽しかったようだ。キットの図面にはなかった場所に窓を取り付けるなど、随所に独自のアレンジを施してある。

「土地と建物の購入に貯金まで使ってしまったが、年金が入るとすぐにホームセンターに走って木を買ってしまう。いずれは本格的な家具を作りたいですね。夢は広がるばかりだ。」

榎明人さん(66)は、平日は東京のマンションで暮らし、金曜から火曜までは八ヶ岳が間近に見える山梨県北杜市の別荘で暮らす。高校時代からよく一人で八ヶ岳に登っていたという榎さんには、八ヶ岳のそばに住むのが長年の夢だった。四年前、念願の地に約千五百平方メートルの土地を購入し、別荘を建てた。一年前から、経営する写真現像会社の業務の大半を社員に任せ

て、週の五日を別荘で暮らす優雅な生活を始めている。この別荘生活の中心となるのが、キットガレージでの写真陶板作りだ。写真陶板とはクロマリンアートともいい、写真を高温で陶板に焼き付けたもの。退色せず半永久的に写真を残せる。この写真陶板の工房、倉庫としてキットガレージを使っている。「最初は母屋の一角で始めたのですが、手狭になってきて専用棟が欲しくなった。近くの展示場でキットガレージを見つけて、手ごわいな大きさで工房にちょうどいいと思ったんです。」

- Q. ガレージハウスの定義は?**
 A. ガレージハウスは、駐車スペースに加え、十分な居住空間を備えた建物のこと。車が2台以上駐車できるくらいの広さがあるのが一般的
- Q. キットガレージとは?**
 A. 購入者が自分で組み立てられるように、部材をキット化したもの。比較的小型のタイプのキットが多く、オートバイが入る程度の広さしかないガレージもある
- Q. 組み立てに必要な技術は?**
 A. 基礎工事は難易度が高いので業者に任せたいほうがいいが、小型のキットガレージだと日曜大工が趣味という程度でも説明書に従って数日で組み立てられる
- Q. 自宅リフォームでも導入可能?**
 A. 独立型のガレージハウスだけでなく、自宅の玄関部分をガレージに改築するケースが増え、この分野に強い工務店や建築デザイナーも登場している
- Q. 建築申請は必要?**
 A. ガレージは建築物なので原則として建築確認申請が必要になる。ガレージの大きさや地域によって不要の場合もあるが、施工業者や自治体によく確認すること

ミニアから趣味の拠点に

て、週の五日を別荘で暮らす優雅な生活を始めている。この別荘生活の中心となるのが、キットガレージでの写真陶板作りだ。

写真陶板とはクロマリンアートともいい、写真を高温で陶板に焼き付けたもの。退色せず半永久的に写真を残せる。この写真陶板の工房、倉庫としてキットガレージを使っている。

「最初は母屋の一角で始めたのですが、手狭になってきて専用棟が欲しくなった。近くの展示場でキットガレージを見つけて、手ごわいな大きさで工房にちょうどいいと思ったんです。」

スケルトン状態のまま約百五十万円で購入し、フロリング張りや内装工事を一週間で仕上げた。一年後には、同じ製品をもつ棟を購入し、こちらは倉庫専用として、工房とつなげて使っている。

敷地内にはほかに東京から移築した蔵があって陶芸を楽しんだり、天体望遠鏡を設置した星の観測専用の建物まである。今夏は井戸を掘って小川のせせらぎを

作り出し、筆を飛ばそうと目論んでいる。写真陶板の作業が一段落すると、その時の気分の赴くまま敷地内を移動する。まさに究極の隠れ家生活だ。

こうした趣味の拠点としての使用法のほか、「ガレージハウスの名のおとり、カーマニアが自慢の愛車と一緒に過ごすために使ったり、自宅では十分なスペースがなかったり騒音問題などで実現できなかった、オートバイルームやホームシアターを作るケースが多く見られる。」

1日半で完成も

市場の拡大に伴ってガレージハウスを扱う会社は増えており、海外からキットガレージを輸入する会社や、ガレージハウス事業に力を入れ始めた工務店、ハウスメーカー、シャッターメーカーなど業種もさまざま。インターネットで情報が見られ、ガレージ作りの専門誌も発行されているので参考にしたい。

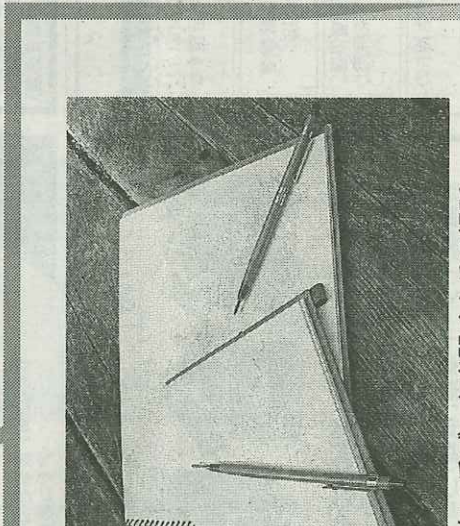
価格は大きさや素材などで幅があり、小型(間口一

・二辺×奥行三・四辺)のものでは約二十万円以下から、大型(間口七・九辺×奥行七・三辺)タイプで約二百五十万円程度から揃っている。小型キットガレージの場合、説明書に従えば一日から一日半で完成する。キットタイプではないガレージの場合も、スケルトンの状態で引き渡してもらえば、内外装を自分好みに仕上げられる。

また、三和シャッター工業の子会社、リビング百十番ドットコムでは、写真ガレージハウスの展開をしている。埼玉県三芳町にある十月人居宅の物件は、一階に車二台分のガレージ、二階は十八畳のワンルームでバス、トイレ、ミニキッチンが備え付け、月の家賃が約十二万円だ。

今後は、例えば陶芸好きの地主が作陶に向けた写真ガレージハウスを建てて、同じ趣味を持つ仲間を集めるなど、ガレージハウスを拠点に新しいコミュニティ作りが始まりそうだ。

(日経BP社企画編集部 菅原 雅信)



スケッチブックを開くとその場所がイメージがよみがえってくる

った。覗いてみると、確かにどこか描かれているのかわからないのだが、まさかおたく妻自身の手で描かれた鉛筆の線がはつきりとスケッチブックに刻まれている。家に帰り、再び二人のスケッチブックを開いてみると、絵の出来映えはともかく、あの時あの場所での二人の会話や妻の四苦八苦の音が鮮やかに蘇ってくる。そして、ああ、

には徳川幕府の雇いとなつ